

神戸

長田の工場見学ツアーに密着

宇宙産業、先端医療に貢献

■本社報道部
〒650-8571
神戸市中央区東川崎町1-5-7
TEL...078-362-7040
FAX...078-360-5501
e-mail
houdou@kobe-np.co.jp

■北神支局
TEL...078-741-5814

■映像写真部
TEL...078-362-7047
FAX...078-360-5508
e-mail
photo@kobe-np.co.jp

火事や事故の速報、写真、映像提供、身近な話題、生活情報を上記へご連絡ください

調敷天満宮
永代供養のご案内

祖霊社・天満宮
網敷天満宮
30万円
それ以外の費用はかかりません

調敷天満宮
1664-0003 兵庫県神戸市東灘区調敷町2丁目11番
TEL 078-734-0240 FAX 078-734-0500

電子版「神戸新聞NEXT(ネクスト)」の紙面ビューワーでは全地域版がご覧いただけます。

詳しくはWebで！
神戸新聞 検索

長田区といえば…。言わずもがな神戸のものづくりを支える中小企業が集まるまちだ。従業員300人未満の事業所は5834(2014年)にも上り、中でもケミカルシューズは世界に名をはせる。

今回参加したのは同区役所が開く「親子で楽しめる！見て・聞いて・体験してながたのものづくりツアー」。3月下旬、小学4年生以上の親子連れ12組27人とともに、主にガスの圧力調整器を製造・販売する千代田精機(同区東尻池町7)を訪れた。1946年創業。市内や稲美町、市川町に計8工場、全国11カ所に営業所を持ち、従業員は190人という。

何をつくっているのか。同社製造部長の浪本進一郎さん(70)の説明を聞いた。「例えばガス溶接・切断機器。鉄をガスで溶接したり、切断したりするもので、重厚長大産業には欠かせません。炭酸飲料やビールに入っ



液体窒素で凍った花の感触を楽しむ子どもたち=千代田精機本社

中小企業の技術力に感動

液体窒素に触れる実験、銅板に名前刻む体験も



医療に使用される製品の部品について説明する社員
千代田精機の神戸第一工場

いた二酸化炭素を気体にする『炭酸ガス化器』も作っています」
うなずきながら熱心にメモを取る子どもたち。浪本さんの言葉にも次第に力が入る。

「マイナス196度の液体窒素を流す配管『真空断熱配管』も開発し、京都大学iPS細胞研究所や理化学研究所、宇宙航空研究開発機構(JAXA)などが打ち上げるロケットの燃料補給部分にも使われています。「オー」。子どもたちの目が輝いた。

液体窒素に触れる実験も行われ、分厚い手袋をして液体窒素で凍りつ

いた花に触れると、ガラスのようにパリパリと割れてしまった。担当社員が「外気に触れるとすぐに気化してしまう。液体のまま使えるよう『真空断熱配管』が必要なんです」と説明する。

次に圧力調整器を製造する神戸第一工場(同区東尻池町9)へ移動。大きな箱の中で、機械のアームがプログラム通り機敏に動く。あっという間に圧力調整器の一部が完成し、きれいに並べられていく。その製造過程を見ようと、子どもたちが必死に箱の中をのぞき込む。

「宇宙ロケットからiPS細胞研究まで」。長田区の工場見学ツアーの参加者を募集する1枚の案内文に目が止まった。テレビドラマにもなり大ヒットした池井戸潤さんの小説「下町ロケット」をこよなく愛する私は、不屈のものづくり魂で、夢に向かってまっすぐに突き進む、神戸の下町ロケットに出合えるのでは、と心躍らせツアーに密着した。(村上晃宏)

いま

■報道部発

ルポ

圧力調整器などの部品製造工程を見学する子どもたち=千代田精機の神戸第一工場



長田区の中小企業「千代田精機」が製造・販売する製品

だ。最後に、製品に製造年月日を焼き付けるレーザーで、メッキの銅板に自分の名前を刻印する作業を体験。名前が刻まれた「製品」を子どもたちは、大事そうにかばんにしまっていた。

最後に訪れた神戸第二工場(兵庫区高松町)では、医療用のレギュレーター(圧力調整器)に圧力計を取り付けられる現場を見学。案内役の社員が「人体に酸素を入れるための機器なので、ごみやほりが入らないよう細心の注意を払って作業している」と語り掛ける。

どのくらい「清潔」なのか。1辺(30.48mm)の立方体の中に、0.5g(0.0005g)のごみが千個以下という基準を満たさなければいけない。ちなみに、車が通る道路付近では500万個以上のごみがあるという。説明を聞いた子どもたちは納得の表情

長田小6年の菊池晋太郎君(11)は「部品を製造する現場を間近に見学できてうれしい。地元こんな会社があるなんて驚き」。真野小5年の高田楓さん(10)は「機械がプログラムされた通りに規則正しく動いている様子がすごかった」と話した。

千代田精機で「命」を吹き込まれた製品は、今や世界十数カ国で流通する。「モノづくり」は『人づくり』。この言葉通り、社内の結束力は強く、長田の「仕事人」が世界を支えている。そう感じた取材だった。